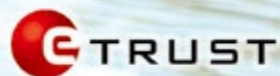


# エボリューション Evolut!on

vol.6  
2017.11

2017年秋号

特集 イートラストの河川監視システム



## TOPICS

### 「全員、挑戦者。」イートラストアワード2017受賞結果

9月8日に埼玉県さいたま市のソニックシティ大宮で開催された、イートラスト設立10周年記念式典において、イートラストアワード2017の表彰式が行われました。

受賞結果は以下の通りです。また下記の受賞者に加え9名がノミネート賞を受賞しました。



**イートラスト大賞**  
刈屋 高志 (イートラスト工事施工部 関東工事課)

**イートラスト賞** (写真はノミネート賞9名を含む)

小竹 優毅 (イートラスト 工事施工部)  
星野 政博 (イートラスト 工事施工部)  
高坂 淳一 (イートラスト 工事施工部)  
前山 智紀 (イートラスト通建 技術部)  
竹井健太郎 (イートラスト埼玉 営業部)



**新人賞**

田丸 靖彦 (イートラスト 営業部 営業三課)  
長谷川孝子 (イートラスト 東北営業所)



**マイスター賞**

長谷川幸雄 (イートラスト カスタマーエンジニアリング部)  
森下 誠 (イートラスト 営業推進部 営業支援課)  
剣持 明男 (イートラスト 工事施工部 電気工事一課)



**ファーストペンギン賞**

太陽光発電事業に携わった社員  
望月進、千原忠訓、高橋朋揮、新保武尊、  
今津勇介、佐山夕渚、外山雄基、本直也、  
佐藤孝司、末満真一、小杉洋佑、吉田剣司



### 展示会レポート

#### RISCON危機管理産業展2017

10月11日(水)～13日(金)の3日間、東京ビッグサイトで開催された「RISCON危機管理産業展2017」に出展し、当社の防災システムを中心に紹介しました。アテンドを担当した営業三課の松岡さんは、「営業部配属後の初のお仕事。社外の方と話すのは緊張しましたが、イートラストの防災ソリューションについて多くの方に紹介することができました。製品についてお褒めいただくことも多く、嬉しく思いました」と感想を語りました。

#### ▼主な展示製品

- ・eTRUST防災情報プラットフォーム (弊社製)
- ・クラウド型防災監視カメラシステム eT001 (弊社製)
- ・25GHz帯小電力データ通信装置 NTG-2501 (株式会社日本無線 社製)
- ・緊急告知ラジオ Comfis-W67 (ワキヤ技研株式会社製)



オープニングセレモニー (左) 配属後の初仕事で緊張していたという松岡さん (上)



3日間の長丁場でしたが、若手社員を中心に頑張ってくれました。

### 今年で4年目! 「イートラストの森」づくり

イートラストは、森づくり活動を通じて地域の環境保全に貢献し、社員のメンタルヘルスや環境教育としても活用する目的で、平成25年9月に新潟県が奨めている「企業の森づくり」アシスト事業の協定を締結しました。

「イートラストの森」は、山古志の竹沢地区に、6,208㎡の土地を借受け、10年をかけて森づくり(植栽)を行います。これまで、森となる土地の開拓や土作りから始まり、草刈りや植樹活動、冬には小屋の雪下ろしなども行ってきました。活動紹介は、新潟県のHPでもご覧いただけます。

#### 「イートラストの森」活動紹介

<http://www.pref.niigata.lg.jp/chisan/1356784235411.html>



背丈を超えるアシの伐採に始まり、森の土作り。そして植樹活動を行います。  
有志を募り、年間を通して様々な作業を行なっています。冬には雪下ろしも!  
植樹した苗木が本当の森に育つには、まだまだ時間がかかります。イートラストの森づくり活動は、これからも続きます!

イートラスト社内報 2017年秋号

エボリューション  
Evolut!on

発行：株式会社イートラスト TEL.03-5246-4531 (本社)

[ 本社 ] 〒110-0015 東京都台東区東上野4丁目8番1号 TIXTOWER UENO 4F

[ 本店 ] 〒940-0871 新潟県長岡市北陽1丁目53番地54

編集：経営企画課・広報 編集協力：glassy株式会社

本誌記事のお尋ね並びに引用の場合は、お手数ですが経営企画課・広報(本社)までご連絡ください。



# 河川監視システム

## 特集

### イートラストの

#### 激甚化する水害・河川氾濫の被害を食い止めるために

当社の河川監視システムは、決して大手に引けをとらない実績と経験、技術を有していると思っています。もちろん企業規模は大きくはありませんが、国や高速道路公路、県や地方自治体から受注した多くのカメラ監視案件を通じて、経験を積み、技術を磨いてきたことに加え、インターネットや携帯電話が普及しはじめた90年後半から、それらを活用した当社らしい仕事とは何か？と考え、IT化に

挑戦してきたことも大きいのではないのでしょうか。IoTやクラウドなどという概念がなかった時代に携帯電話の通信網を利用した水門監視システムを開発しましたが、当時、某大手携帯会社に非常に驚かされ、急速共同プロジェクトの申し出があったほどでした。今振り返るとそれは当社にとってイノベーションと呼べるものだったのではないかと思います。その後、早くから電源にソーラーパネルを使ったり、

夜間でも監視できるカメラをメーカーと共同開発するなど、防災を目的とした河川監視ならではの条件をクリアできるシステムの構築と施工に取り組んできました。その中で自治体や利用者のニーズに寄り添い経験を重ねてきたことは当社の最大の強みであると考えています。現在は、総務省や長岡市などの支援（補助金）を受けながら、簡易に設置でき、かつ確実な河川の遠隔監視可能な監視カメラシステム

や水位計の開発に挑戦しています。今夏に大きな河川氾濫の被害を受けた福岡にも当社開発の監視カメラが10数台設置されて、その動きは海外も含め各地で活発になりつつあります。国内外で激甚化する河川災害の被害を少しでも減らすことを当社の使命としてさらなるイノベーションをめざして進んでいきます。

「話：代表取締役社長 酒井龍市」

## 私の新人時代



取締役  
**高橋 胤生** たかはし・つぐお

1955年生まれ。  
1979年北越銀行入行、  
東京支店事務集中課に配属される。  
その後2014年イートラスト入社。  
休日はジョギングや庭掃除して過し、  
冬には雪掘りがメインに。  
好きな言葉は「六十にして六十化する」。

銀行に入行して支店に配属されると、仕事をまんべんなく学ぶために、4年間で普通預金→定期預金→為替→融資→渉外と、大体この順番で回ります。研修を重ねますが即戦力の期待も大きくプレッシャーは相当です。入行当時は先輩行員がリーダーとなり半年間、毎日ノートを交換し、営業時間中に聞けなかったことや疑問点を積極的に書き出して、その回答を学習していきました。また財務、税務、法務、生命保険、損害保険、ファイナンシャル・プランナーなどの資格取得のため、四苦八苦の土日が続きました。

日銀への現金の受け取りや手形交換所での交換戻の決裁も仕事の一部でした。ある日、交換所で無事に終わったはずの決裁が支店に戻ると間違っていたことが判明。関係した複数行に冷や汗をかきながら平謝りで回り、何とか大事に至らずに済んだこともありました。

2年目は窓口です。その日は法人税の納付日で、企業の方々が大量の納付書を持って来店されました。シャッターが閉まりヤレヤレと思ったのもつかの間、現金が合いません。計算機の手打ちの時代、納付書と1枚1枚を打ち込んだ印字と突合する作業が始まりました。原因がわかるまで2日間の徹夜作業でしたが、深夜まで手伝い、翌朝にはパンと牛乳を持ってきてくれた諸先輩に感謝感謝の一件となりました。



4年目は渉外です。地区担当は八重洲、京橋、日本橋。法人と個人の両方の担当でしたが、個人の新規先がどうしても獲得できません。このエリアは個人住宅が少



くないです。そこで考えました。百貨店の店員さんはどうかと。早速その足で三越に入りました。入口近くの化粧品売り場で、アラミスのコロンを買い、包装をしてもらっている間に話をして積立を一件頂戴しました。ちょうど将来のために積立を考えていたとのこと私の勧誘術ではなかったようです。運よく、その女性から積立をしたいという別の方も紹介してもらいました。その方は紳士服売り場。今度はブルックスブラザーズのポロシャツを買いました。さすがに婦人服売り場には踏み込めませんでした。二桁の新規先を獲得できたことは自信につながりました。しかし相当な散財もしてしまいました(笑)。

普段の朝は自宅で新聞チェックから始まります。日経、日刊工業と新潟日報です。全国紙で経済、国際、企業、マーケットなどの情報を中心に記事を読みます。地方紙では地元企業の動向や死亡欄を確認します。最近、新聞で「Fiduciary Duty」という言葉よく目にします。直訳は「受託者の忠実義務」。信任を受けた者が履行すべき義務のことです。お客様のニーズをふまえた製品ラインナップの整備、お客様本位の情報提供とコンサルティングの実施、お客さま本位の施工態勢の整備がこれにあたりますが、お取引先や社会から信頼され、社会に必要な存在になるために当社はこれを実践しているのだと思います。

20代は何をやりたいかも大事ですが、自分がどういう組織で、どんな働きで、どうやって経験を積むのが大事だと思います。失敗を恐れて萎縮するのではなく、与えられた仕事にベストを尽くせばチャンスは必ずやってきます。そうやって自分にしかできないキャリアを見つけ、自信に繋げていくことが大切だと思います。

## Evolut!on

vol.6 | 2017年秋号

### Contents

コンテンツ

- 2 私の新人時代
- 3 特集 イートラストの河川監視システム
- 8 クラウド型 防災監視カメラシステム eT001

- 10 お客さま訪問
- 12 TOPICS

河川監視システム関連の動き

西暦	会社の略歴	工事・開発関連	西暦	会社の略歴	工事・開発関連
1935年	長岡市殿町3丁目でモーター修理業を創業		1993年	新潟県防災情報システムの整備はじまり	新潟県防災情報システム 機器製作
1953年	株式会社近藤電気商会設立		1994年		新潟県防災情報システム 全県下施設設置
1963年	酒井無線創業		システム自社開発の始まり		
1964年	株式会社近藤電機商会と商号変更		2001年	WebDoI設立	遠隔監視システムの自社開発開始
1971年	近藤電機株式会社と商号変更		2004年		Web-cert簡易型河川水位監視システム開発
1978年	株式会社酒井無線と商号変更		2005年		SCOPE採択「インテリジェントビデオセンサー水位監視」
ダム関連設備の業務のはじまり(ダムコン・テレメタ)			2007年	イトラスト設立	
1973年		下条川ダム	2009年		長岡市防災情報システムの開発開始
1974年		大野川ダム(～79年)	2011年	東京オフィス開設	スタンドガード開発・販売開始
1975年		刈谷川ダム(～80年)	2013年		スマホカメラ開発・海外事業開始
1983年		正善寺ダム	2015年	東京を本社に	eT001開発開始
1984年		久知川ダム	2017年		レーダー式水位計開発開始
1992年		三國川ダム			

スタンドガード | 新潟県三条市 |

防災カメラ静止画監視システム



[12台設置]  
河川監視(10分に1回)、ハイブリッド対応⇒通常AC100Vで停電時は太陽光パネル+バッテリーで稼働

2015

スタンドガード | 青森県 |

青森県鯉ヶ沢監視システム



[鯉ヶ沢の河川に1台設置]  
河川監視(10分に1回撮影)、太陽光パネル+バッテリーで稼働  
※この後、夜間が監視出来るパナソニックへ変更となる

2014

ネットワークカメラ | 青森県 |

青森県五所川原市西北地域県民局監視カメラ



[5台設置(現在は11台)]  
河川監視(10分に1回撮影)、太陽光パネルと風力+バッテリーで稼働

2016

スタンドガード | 北海道岩見沢 |

北海道岩見沢市監視システム



[岩見沢市の河川水門に1台設置]  
河川監視(撮影は任意)、水位計を設置して水位をグラフ表示  
太陽光パネル+バッテリーで稼働

2014

東京を本社に eT001開発開始

2017

河川監視システム | 静岡県焼津市 |

平成29年度水防監視システム管理業務委託

[24台設置]  
小石川 小土 地内に新設カメラ1台、国交省カメラ(既設13台)、静岡県カメラ(既設9台)、焼津市カメラ(既設1台)計24台の水防監視カメラを集積し一元管理を実現したシステムを提供。



2017

2017

スタンドガード | 熊本県大津町 |

熊本県大津町監視システム



[5台設置]  
河川監視(10分に1回)、ハイブリッド対応⇒通常AC100Vで停電時は太陽光パネル+バッテリーで稼働

2013

ネットワークカメラ | 埼玉下水道公社 |

荒川水循環センターカメラ修繕工事



荒川への浄化した水の放流監視として25GHz帯を使った無線ネットワークで監視カメラ映像を伝送河川監視

2013

スマホカメラ | 野鳥の会 |

野鳥の会様矢並湿地監視カメラ



[1台設置(現在は3台)]  
森の中の小さな小川と沼を監視、太陽光パネル+バッテリーで稼働

2013

# イトラストの河川監視システムの流れ

経験と実績から生み出されてきたもの

イトラストの河川監視システムには、長い年月をその取り組みに費やしてきました。今回の特集では、これまでの歴史を振り返りながら、国内・海外における導入実績と取り組みについてその一部をご紹介します。



長岡市殿町3丁目でモーター修理業を創業

酒井無線創業

ダム関連設備の業務のはじまり(ダムコン・テレメタ)

新潟県防災情報システムの整備はじまり

システム自社開発の始まり

7・13 水害 / 10・23 新潟中越地震  
Web-cert簡易型河川水位監視システム開発  
SCOPE採択「インテリジェントビデオセンサー水位監視」  
イトラスト設立  
7・16 新潟中越沖地震

東京オフィス開設  
3・11 東北大地震  
STANDGUARD開発・販売開始

河川監視システムの取り組みは15年前に始まった

当社の河川監視の源流は昭和50年代にはじめたダム関連設備での監視システム(ダムコン・テレメタ)にさかのぼります。当時はネット網もなく、設備の中だけで完結するシステムでした。平成になりインターネットや携帯電話が徐々に普及してITの時代を迎える中、アナログ無線ではなくIP通信を使用した流雪遠隔監視システム(2002年)を長岡駅前地区に構築。現在の河川監視の実績を生む最初のきっかけのひとつとなりました。

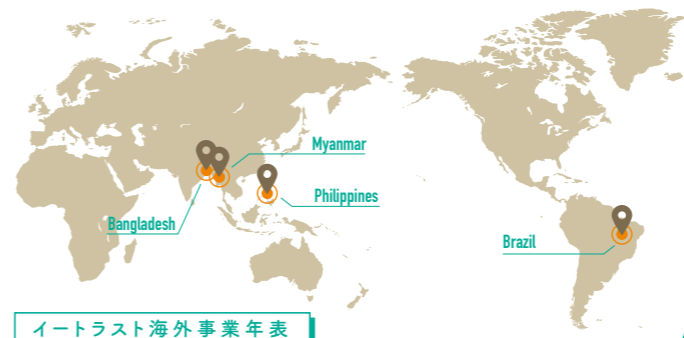
イノベーションのさらなる深化、進化を目指して

2000年ごろから、国や高速道路公団現在のNEXCOが光ケーブル網の整備に伴い、IPカメラ網が発達。当社もその施工に早くから関わり、現在も関越道、アクアラインなどの監視システムの施工に取り組んでいます。その実績は決して大手企業にも引けを取らないものとなっています。その実績に加えて、新潟県や長岡市での自治体の防災関連事業への取り組みを通じ、多くの経験と技術を蓄積してきました。

現在当社は、それらの積み重ねを大切に、当社が理想とする監視カメラ(eT001)や水位計(76GHzレーダー式水位計)の開発を行っています。より良い形でそれらを完成させ、全国の河川に普及させていくことで、河川水害の被害を少しでも減らせるように貢献していきたいと考えています。

# 海外で稼働するイトラストの 河川監視システム

当社は国内だけでなく、海外でも河川監視システムを構築しています。現在の実績は4か国。きっかけは2012年、ある大学教授が当社の河川監視システムを知り「海外でも通用するのでは?」と声をかけてくれたことでした。それを機に海外事業(フィリピン)が始まり、また同時期にバングラデシュのプロジェクトも開始。以来、安価でインフラに頼らずに設置できる監視システムは、メンテナンスも簡易で実用性に優れていると評価されています。



## イトラスト海外事業年表

西暦	月	出来事
2012年		黒川清登先生(横国大・当時)と出会い、JICA等の申請に着手
2013年	8月	政府開発援助海外経済協力事業委託費による案件化調査 採択 [バングラデシュ]
	9月	JICA草の根技術協力事業(地域経済活性化特別枠) 採択 [フィリピン]
2014年	3月	政府開発援助海外経済協力事業委託費による案件化調査 完了 [バングラデシュ]
	12月	一般社団法人 日本防災プラットフォーム(JBP)へ加入
2016年	1月	ブラジルにおけるネットワークインフラを活用した社会課題解決に係る調査研究 採択 [ブラジル]
	3月	ブラジルにおけるネットワークインフラを活用した社会課題解決に係る調査研究 完了 [ブラジル]
2017年	5月	ティラワ経済特区環境モニタリングシステム納入 [ミャンマー]
	6月	JICA中小企業海外展開支援事業案件化調査 採択 [フィリピン]
	11月	ALSOKミャンマー遠隔集中監視システム 納入 [ミャンマー]

# ミャンマーに 環境監視システムを



当社の海外事業の中でも、現在一番ホットなミャンマー事業。その立役者は1人の若手女性社員でした。経済国家への道を歩み始めたばかりの発展途上国・ミャンマーでの奮闘の様子を、現地の風景と共にご紹介します。

## 単身、ミャンマーに乗りこむ

海外事業が開始したところから関わっていましたが、2015年に経産省の「日本人派遣インターンシップ」という社会人向けの海外インターンシップ制度を紹介され、手を挙げました。審査を経て、4カ月間のミャンマー派遣が決まりました。ヤンゴンの商工会議所で働くことになりました。そこはとてもんびりした職場で私ができる仕事もなく、残念ながらお客さま状態でした。これでは時間がもったいないと思い、許可をもらい現地の日系企業にヒアリングと当社の防災環境カメラシステムの営業をすることに。現地の日系企業のリストを手に入れて、一社一社、直接訪問する毎日が続きました。

## 海外で初のeTOO1設置まで

経産省のインターン生ということで、大手企業でも比較的暖かく迎えてもらったと思います。そんな中、ミャンマーと日本の共同出資で設立されたMJTD(ミャンマー・ジャパン・ティラワ・ディベロップメント社)が開発しているティラワ経済特区での防災環境モニタリングのお話を頂きました。インターンシップ終了後、開発部のメンバーと共に当社の防災監視カメラeTOO1を4台設置しました。当社の環境監視カメラの取得データがミャンマー政府など広く共有されることになり、現地の防災に貢献できてよかったなと思っています。

## ティラワ経済特別地区防災環境モニタリングシステム



雨季や台風により発生する浸水の被害を防ぐため、特別地区内の水門や上流のダム、港施設などの4カ所で現地画像の撮影と気象のモニタリング(風速・風向、雨量など)を行っています。



A. システム完成のセレモニーにて B. 仏像に供えたり、女性の装飾に使うジャスミンの花 C. スマホカメラを取り付けた小学校の子供たちと D. 現地の代表的な朝食、モヒンガー E. ヤンゴン中心地にある寺院、シュエタゴンパヤー F. インターン先の職員の方と一緒に

ソリューション開発部  
アプリケーションサービス課  
主任

### 田之上 遥子

2012年入社。東京オフィス開設時の初期メンバーとして諸業務を支えながら、海外事業にも挑戦してきた。日本酒とワインが大好きな食いしん坊。着用しているのは現地であつたミャンマーの民族衣装。



## フィリピン

フィリピン共和国  
ラグナ湖周辺農村地域への  
地域経済密着型の  
河川監視カメラシステムによる  
防災システム向上プロジェクト

フィリピン北部のルソン島に位置するラグナ湖周辺の市町村に対し、地域経済密着型の簡易な河川監視カメラシステムによる防災体制の強化を目的としました。当社が携わる長岡市の防災システムをモデルにして、ラグナ州サントラサ市とカラナンバ市、リザール州アンゴノ町の3地域、合計6カ所に設置しています。3年間のプロジェクト期間において、大きなシステム故障はなく現在も継続して運用されています。



## バングラデシュ

太陽光発電および  
無線通信を活用した  
河川監視カメラシステムによる  
水防災対策事業に係る  
案件化調査

平成25年度の外務省政府開発援助海外経済協力事業「案件化調査」に採択され、バングラデシュ人民共和国における水防災対策の調査を実施。実証パイロット調査として、現地政府機関協力の下、バングラデシュのシレット地方に2箇所、ダッカ市内に1箇所の計3箇所に河川監視カメラシステムを設置。雨季の時期には多くの地域が水につかってしまいうバングラデシュでの水防災に有効であることが証明されました。



## ブラジル

総務省  
ブラジルにおける  
ネットワークインフラを  
活用した社会課題解決に  
係る調査研究の請負

パラナ州内のMorretes、União da Vitória、Francisco Beltrãoの計3箇所に、河川監視局3局を設置しました。また川幅が広く水流が速いイグアス川に面したCBO de Vitória局には電波式水位計も併設。監視画像は1時間に1回、水位データは10分に1回収集され、インターネット環境があればどこでも収集した情報にアクセスすることが出来ます。また危険水位に達すると現地消防局などの関係者にメール警報を発信する機能を新たに実装しました。





### 様々な自然災害の監視に

- 河川 ● 海岸／港 ● 津波
- 積雪 ● 山岳地域 など
- その他 ● 不法投棄 ● 工事現場監視



### 多様なセンサー、IoTに対応

- 水位 ● 風速 ● 照度 ● 気温 ● 風向 ● 紫外線
- 湿度 ● 日照 ● 人感 ● 雨量 ● 放射線 など



### 有線／無線に対応

- 光ファイバー・有線LANなど有線回線に対応
- 無線LAN・モバイル回線に対応
- 現地のインフラ条件にあわせてカスタマイズ可能



### 簡単設置

- ソーラー発電&バッテリーで、商用電力がなくても設置可能
- クラウドシステムなので、独自サーバーがなくてもOK
- 設置後すぐに監視が可能

### 主な仕様

本体制御装置	外形寸法	W220×H217×D255mm (金具・突起部含まず)
	重量	約3kg (金具含まず)
(カメラ部)	撮像素子	1/3型CMOSカラーセンサー
	有効画素数	約130万画素
	出力解像度	SXGA (1280×1024) HD (1280×720) VGA (640×480)
	レンズタイプ	固定焦点レンズ
(センサー入出力部)	水平画角	48度
	アナログ入力	DC 0-5V / 4-20mA
	シリアルポート	RS-232C / RS-485 / TTL
	デジタル入出力	2入力 / 2出力
ソーラーパネル	公称最大出力	20W
	外形寸法	W350×H538×D35mm (突起部含まず)
	重量	約2.6kg (金具含まず)
電源BOX装置	公称電圧／容量	12V / 26Ah
	外形寸法	W232×H240×D150mm
	重量	約13kg (金具含まず)
環境性能	温度	-10 ~ 55°C
	湿度	20 ~ 80%
	IP性能	IP55相当

### 開発担当者が語る

## eT001の魅力



ソリューション開発部 システム開発課  
浴 浩二 [えき こうじ]

「止まらずに、動き続ける」。これは監視カメラの使命です。どんな災害が起ころうと、防災監視カメラは現場の状況をとらえ、その情報を発信し続けなければなりません。私たちが開発した「クラウド型防災監視カメラシステム eT001」の特徴は、電気や通信が遮断されていても撮影ができること。さらに、たとえ無日照状態に陥っても、蓄電池を利用して7日間システムを稼働し続けることが出来ます。eT001は、監視カメラにとって最も大事な「動き続ける」ということに対する高い信頼性を有した製品です。

この「動き続ける」という機能を実現するためには、「消費電力をどれだけ少なくできるか」がカギでした。開発チームで「試行錯誤しながら、ソーラーパネルの選定や自動電源オフ機能の組み込みなどを行い、低消費電力で動き続ける監視カメラシステムを構築しました。

今後の目標は、現在取り組んでいるレダー式水位計の開発を進め、eT001と水位計を組み合わせた河川監視システムを完成させることです。水位の変動を画像でとらえるeT001と、数字でとらえる水位計。この2つが合わされば、河川監視として理想的な形になります。その実現のために、これからも力を注いでいきたいと思います。

## イートラスト謹製！ 河川監視に最適な カメラシステムできました

Remote location  
monitoring system

クラウド型

## 防災監視カメラシステム eT001

国内各地の中小河川は監視カメラの設置がほとんどなく、氾濫の状況も住民の通報で知るしかないなど、現在大きな問題となっています。これらの河川にも短期間で容易に設置できるよう、電源や通信線が不要でインフラ条件に左右されない遠隔監視システムとして「クラウド型防災監視カメラシステム eT001」を開発しました。また水位計をはじめ、各種気象センサーを必要に応じて自由に搭載することも可能になっています。長年にわたるダムや河川監視の実績をもとに当社が開発した、水害に負けない暮らしを見守る防災カメラシステム「eT001」。今秋、販売を開始し、すでに九州北部などの自治体様の河川で稼働を始めています。

※本製品は厳しい審査を経て、平成27年度、東京都中小企業振興公社による「先進的防災技術実用化支援事業」による助成金にて開発されました。

### 特長

完全ワイヤレスで撮影画像、測定データを取得し、クラウドサーバーへ送信。電源設備等の整っていない場所でも容易に設置・施工ができます。

お客様の要望に合わせて、気象センサーや水位センサーなど多様なセンサーを組み合わせたカスタマイズが可能です。

月明かり程度の明るさでも現地画像の確認ができます。

※外部照明との連動も可能



夜間撮影事例

フィリピン共和国、  
ラグナ州サンタ・マリア市

### 運用

配線工事不要のため、お客様による容易な設置が可能です。クラウドサービスによりいつでもどこからでも画像・データを確認できます。



# お客さま訪問

File. 001

## インカムの導入で、スタッフの不安が解消。介護の質も向上へ。



社会福祉法人 共済福祉会  
高齢者福祉部  
特別養護老人ホーム  
**伊豆白寿園**様  
(静岡県田方郡函南町)

風光明媚な伊豆半島の付け根部分に位置する函南町。この穏やかな気候の町にある社会福祉法人 共済福祉会「特別養護老人ホーム 伊豆白寿園」様において、職員が利用するインカム（ワイヤレス）の導入をお手伝いしました。導入から約半年が経った10月某日、施設にお邪魔して、使い勝手や導入の効果などのお話を伺ってきました。



部長・施設長 原 聖さん  
生活相談員主任 石井 輝さん

十分なコミュニケーションが取れることで、  
的確でゆとりある対応が可能になりました

「こちらの施設の特徴を教えてください。」

介護を必要とする高齢者の生活の場として、1978年に開設して来年で40年を迎えます。開設時は日本電信電話公社（現NTT）の退職者やそのご家族の利用が大半でしたが、現在では地元中心の利用になっています。施設の名前でもある「白寿」は99歳のことなのですが、開設時には少なかった90代のご利用者も増えてきました。函南町役場やNTT東日本伊豆病院に隣接している、医療や福祉が整備された、緑豊かな場所です。建物は少し古いで

すが、働く職員が明るく、利用者との会話が多い心安らぐサービスを身にしています。

「インカムを導入するきっかけは何だったのでしょうか？」

従来、職員はPHSを利用して連絡を取り合っていました。1対1の通話が基本ですから、ボタンを押して相手が出るまで待たされることや、相手が応答できる状況なのがかわからないことなどのストレスも大きく、またひとつの内容を複数のフロアに伝えるにはフロアごとに同じ話をくり返す必要がありました。また当園では夜間は1フロア1名ずつの配置となります。そのため、夜間は担当フロアから離れて他職員に相談することができず、これまでは孤独で不安な業務になっていました。特に経験の浅いスタッフには重責です。そ

ういった夜の勤務に耐えかねて若手が離職するというのが、全国の介護施設が持つ共通の課題とも言われ、この夜間の不安解消と職員間の連携強化が、インカム導入のきっかけのひとつでもありました。

※インカム（インターカム）とは？  
インターカムとは、移動しているスタッフへの音指令が必要な業務で使用される内線通話機（相互通信式構内電話）。「インカム」とは「インターコミュニケーション」の日本語省略形です。同建物内や同敷地内で使用する通話システムのことを指します。

「インカム導入から半年が経過しました。ご使用感はいかがですか？」

このインカムは装着しているすべての職員と常時つながっています。介護中に両手が塞がっていても、他の職員の呼びかけに即座に返事が可

能的な意見も出されましたが、今では職員がそれぞれ工夫して装着していますので問題ありません。

「導入時の流れはいかがでしたか？」

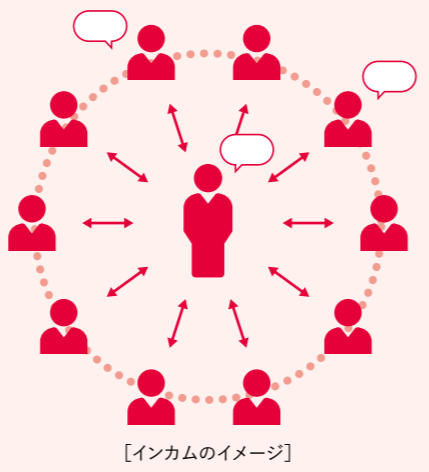
導入を相談してから、まずは当園の構造や広さを細かく調査してもらいました。その上で、条件にあった機種をいくつか実際に試して、使い勝手を確認することができました。その結果、導入後のイメージが持てたので、導入までもスムーズに進めたと思います。一度不具合がありました。迅速に復旧してくれ、連絡を入れるとすぐに駆けつけてくれ、迅速に復旧しました。またイベントの際のアンテナ線の切り替えや操作の確認などにも対応してもらえ、助かっています。

### 同時通話コミュニケーション + 秘匿性&クリアな音質

#### ストレスフリーで話せる

- メンバー間で同時に電話感覚で通話できる
- いつでも会話に割りこめる
- 常時マイクをONにしてハンズフリーで通話可能

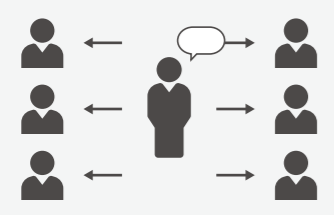
無線局免許・資格不要



[インカムのイメージ]

きめ細やかでストレスフリーなコミュニケーションにより、サービス向上やリスク回避が可能です。

#### 一方通行の連絡



[一般的な無線機、PHSなどのイメージ]

### イートラスト 担当者の声



インカムには各種ありますが、雑音が大きかったり、ボタンを操作して話すので電話のようにスムーズに会話できなかったり、せっかく導入しても利用が難しくなってしまうこともあるようです。そこで、施設内での通信調査を徹底的に行い、死角のないよう通信設計を考えると同時に、実機を持ち込んで、実際に聞こえ方や使いやすさを、職員の皆さまに体感していただきました。すでに半年以上経ちますが、トラブルもほとんどなくご活用されているとのことで、大変うれいす。今後も何かあれば、いつでも頼ってもらえるよう、アフターケアにも力を入れていきたいと思ひます。

株式会社 イートラスト  
東海営業所 所長 酒井 馨 (さかい かおる)  
静岡県内の自治体を中心に通信システムや防災システム等の導入を通じ、暮らしやすい生活や防災・減災への貢献を目指す。甘いおやつが毎日の楽しみ。  
問合せ：株式会社イートラスト 東海営業所  
静岡県三島市寿町4番25号 中井ビル3F  
TEL: 055-955-9205